

卒業研究「ゼミ活動から見えた新たなリーダーシップの重要性」

梅澤佳子ホームゼミナール 4年 宮腰裕

1. 経緯・目的

私は、地域活動を行っている梅澤ゼミに所属し、2年次は「多世代交流みんなの食卓プロジェクト」(以下PJ)に参画していた。食卓PJの運営を通じて、私が学んだことはチームを運営し引っ張るリーダーシップである。梅澤ゼミはリーダーを決めない運営方針で、状況によって各自がリーダーシップを発揮している。当時、先輩は「ミーティングの際に意見交換が途切れることがないようにする事を一番意識していた」と言っていた。確かにミーティングでは、全員に発言の機会が平等に与えられ、各メンバーが自由に様々な意見を述べており活発なミーティングが行なわれていた。コロナ禍で食卓PJが休止となったため、3年次は「多摩地域マイクロツーリズムPJ」を立ち上げた。ミーティングを行ってみると先輩方のように進まない。私はこんなにも違いが出るのかと痛感した。先輩達と自分達を比較して改めてチームを運営し引っ張るリーダーシップとは何なのかを考えるようになった。

仕事も地域活動もチームで進めていかなければならない。しかし、これからのリーダーシップの形は大きく変化するのではないかと私は考えている。今後はどのようなリーダーシップが求められるのだろうか、必要になっていくのだろうか。それを明らかにすることが本研究の目的である。

2. 日向野幹成氏のリーダーシップ論

「現在、日本含め世界的に全員参加型のリーダーシップの必要性が高まっている。」と『高校生からのリーダーシップ入門』の著書日向野幹成氏は書いている。「変化」のスピードが速くなっていることがその理由である。インターネットの普及で世界中の人々のライフスタイルが変化し、誰でもスマホなどから膨大な情報を集められる時代になった。そのため膨大な情報の中から必要な情報を選択し、物事を

判断しなければならない。しかし、これまでのような上意下達型のリーダーシップの場合、このような時代の変化に指示を出すリーダーが一人ではついて行くことができず、チーム全体として変化に対応することが遅れてしまい、結果、衰退してしまっている。リーダーが一人の上意下達の管理方法だと限界がきてしまっているため、全員参加型のリーダーシップが今後は必要なる。しかし、多くの人がリーダーシップなんて「自分には関係ない」、「私にはリーダーシップを取れるような力がない」と考えている。日向野氏は、リーダーシップはトレーニングをすれば誰でも身につけることができる力であり、そのトレーニングとして部活やグループディスカッションが最適だと書いている。

3. まとめ

以上をまとめると、インターネットの出現などにより変化のスピードが急速になり、様々な種類の変化も多様になってきた現代社会に現状のリーダーシップでは対応ができなくなってきた。変化が多様になってきた中で、問題解決のためには多様なアイデアが必要になり、ある一部の少人数で意見を出し合うのではなく、チームで意見を出す方がより重要視されているということである。

梅澤ゼミに所属し2年次から2つのPJに参画し沢山の事を学んできた。そこで私は、今後、必要になる新たなリーダーシップとは、そこに参加する全員がそれぞれの役割においてまわりに働きかけ、それが人を動かし、その積み重ねの中で結果的にチームとして何らかの成果を得る、全員参加型ではないかと私は考える。

参考引用文献

日向野幹成『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房、2018年